

当院で乳がん治療を受けておられる方へ

国立病院機構九州がんセンター乳腺科では現在、下記の調査研究に参加しております。

研究テーマ：固形癌における骨髄、末梢血の免疫関連遺伝子、癌関連遺伝子発現の臨床的意義の検討

参加施設：九州大学病院を中心に他3施設

近年、手術療法、化学療法、放射線療法に次ぐ第4の治療法として免疫療法が注目を集めています。その一つが免疫チェックポイント阻害剤です。免疫チェックポイントとは免疫担当のT細胞の攻撃にブレーキをかける仕組みのことをいい、そのブレーキを解除させる薬が免疫チェックポイント阻害剤になります。ブレーキが解除されると、T細胞が再活性化し、癌細胞の増殖を抑える働きが戻ることを期待されます。実際に免疫チェックポイント阻害薬は、悪性黒色腫、非小細胞肺癌、腎癌などに対し良好な治療成績が報告されています。しかし、この薬剤は非常に高額であり、また有害事象を考慮すると、治療効果を予測するバイオマーカーの同定が喫緊の課題ですが現時点で確立したものはありません。

これまでに腫瘍細胞や腫瘍に浸潤している免疫細胞のPD-L1発現が、効果予測バイオマーカーになりうると報告されていましたが、臨床効果との相関は不十分です。さらに、組織検査は侵襲の高い検査ですので頻回の検査は困難です。一方、血液検査は簡便に繰り返し採取でき低侵襲で、コストの点でも優れた検査です。

本研究では、将来的に固形癌における末梢血のリキッドバイオプシーとしての可能性について研究するため、その前段階として消化器癌、乳癌における骨髄、末梢血、組織の癌関連、免疫関連遺伝子の発現、臨床的意義、予後との相関を検討することを目的とし、計画しました。

この研究は研究許可日から2022年12月まで行われます。どのような治療がなされどのような効果があったのかのデータを収集することを目的にしています。患者さんのカルテから収集できる情報を用いて分析しますので、新たに検査を受けてもらうなど、負担をお願いすることはございません。

●対象となる患者さん

1998年10月1日から2005年8月31日までに乳癌の切除手術を行った方。

●利用する情報

- ①年齢、性別、病歴、家族歴に関する情報
- ②採血データ、画像データ、病理検査結果
- ③再発、予後情報
- ④血液、骨髄液、病理組織の解析データ

この調査研究は、当院の倫理委員会で承認されています。お名前、住所、電話番号、カルテ番号などあなたの個人情報が特定できないようにした情報を研究に使用しますのでプライバシーは厳重に守られます。

何かご不明な点がありましたら、またより詳しくお聞きになりたい方は、担当医までお問い合わせください。

2018年6月

(当院お問合せ先) 国立病院機構九州がんセンター 乳腺科
研究責任者 徳永 えり子
TEL:092-541-3231 FAX:092-551-4585
〒811-1395 住所:福岡市南区野多目 3-1-1